

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法 I Social work theory and method I		1年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成	福祉棟3F	火～金9:00～17:00 (授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要 相談援助における人と環境の相互作用に関する理論について学習し、援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。さらに相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深めていく。				
授業の到達目標 社会福祉に関する相談援助活動の専門職としての知識および技術を学び、具体的かつ実践的に理解でき、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えるようにすることができるようにする。				
授業の方法 基本的に講義形式で行う。必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行う。				
学習の成果 ①相談援助における人と環境の相互作用に関する理論の知識を修得することができる。 ②社会福祉援助の対象と様々な実践モデルについて理解することができる。 ③相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深めることができる。 ④ソーシャルワーカーとして、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の進め方の説明			
第2回目	人間と環境の交互作用			
第3回目	相談援助の対象について			
第4回目	相談援助の原則とは			
第5回目	相談援助の実践モデルとは			
第6回目	相談援助のアプローチについて 治療モデル・生活モデル			

第7回目	相談援助のアプローチについて ストレングスモデル・心理社会的アプローチ		
第8回目	相談援助のアプローチについて 機能的アプローチ・問題解決アプローチ		
第9回目	相談援助のアプローチについて 課題中心アプローチ・危機介入アプローチ		
第10回目	相談援助のアプローチについて 行動変容アプローチ・エンパワメントアプローチ		
第11回目	相談援助の過程について インテーク・アセスメント・実施		
第12回目	相談援助の過程について モニタリングと評価・効果測定・アフターケア		
第13回目	相談援助における援助関係 援助関係の意義と概念及び形成方法		
第14回目	相談援助における面接技法 相談援助のための面接技術の意義、目的、方法、留意点		
第15回目	総括 相談援助の理論と方法 I のまとめ 論述式筆記試験 (定期試験)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。
レポート		20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べることができる。序論、本論、結論と3部構成になっている。
調査報告書			
小テスト		10%	毎回の授業において小テストやリアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。
中間・学期末試験		60%	論述式・選択式で行う。
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
『相談援助の理論と方法 I』 弘文堂 『社会福祉援助技術演習』 保育出版 他 授業中に指示し、資料を配布します。			
履修上の心得・ルール			
一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認することがあります。口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。			